

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	人間福祉研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) コースワークとリサーチワークのバランス (院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 (学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究科の目的、方針とカリキュラム構成(科目群)との関連を検討し、見直す。	→大学院諸問題検討委員会における検討数。	B	B			
2. 研究科のカリキュラム編成における体系性と各授業科目の配置を見直すと共に、それに基づいてカリキュラムを改正する。	→大学院諸問題検討委員会における検討数。	B	B			
3. 大学院生による各授業科目の教育内容をアンケート調査等により評価する。	→大学院生を対象としたカリキュラム編成や配置されている授業科目の評価を目的としたアンケート調査報告書の作成。	C	C			
4. 高い実践能力や実証研究能力の涵養という目的と各授業科目との適合性をアンケート調査等により評価する。	→福祉現場で働く福祉職員や他の大学院教員によるアンケート調査の報告書の作成。	D	D			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.2.1	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (説明) 前期課程の完成年度を迎えた2010年度は、月1回開かれる大学院諸問題検討委員会において、その教育目的、カリキュラム構成全体や各授業科目の適切性等を見直し、カリキュラムの一部変更を実施したところである。今後は、カリキュラムの構成全体を見直す方向である。
☆ 小項目6.2.2	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 (説明) 教育課程に相応しい教育内容を手提供しているかという点についても、2010年度は、大学院諸問題検討委員会で何度となく検討を重ねてきており、それらの検討の結果、科目数を増やすなど、カリキュラムを一部改正したところである。
その他	

### 《評価指標データ》

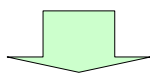
MDSプログラム履修者の全学生に占める割合  
 ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合  
 専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

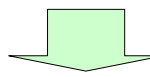
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	高い実践能力や実証研究能力の涵養という目的と各授業科目との適合性をアンケート調査等により評価することが2010年度は、実施することができなかった。



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	大学院諸問題検討委員会と自己評価委員とで協働してアンケート項目を作成し、2011年度には調査を実施していく予定である。

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○適切な対応がなされていると判断されますが、具体的な問題点や改正内容等の記述がないので、現状が読み取りにくい記述になっています。第三者にわかりやすい説明が望まれます。

【学内委員】

○教育課程の編成・実施方針に基づき、カリキュラムの検討などを行い、必要な改正を行っていることは評価できます。

○月1回開かれる大学院諸問題検討委員会での検討や、大学院生向けや福祉職員など向けのアンケートの活用を踏まえた研究科完成（2010年度）後のカリキュラム見直しの方向性は評価されます。ただ、上記のアンケートのなるべく早い実施が期待されると同時に、学位授与方針に関するアンケートも含めた様々なアンケートの相互関係の説明も期待されます。

○本項目は、検討の経緯を聞いているのではなく、授業科目を適切に開設し教育課程を体系的に編成しているか、各課程に相応しい教育内容を提供しているか、についての現状を聞いています。要素や大学基準協会における留意すべき事項を参照され、それに沿った記述が求められます。現記述では、小項目に込んでいるとは言えません。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部の教育における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性

・学生の順次的・体系的な履修への配慮

・各学位課程の固有の課題に応える措置（例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など）

#### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- アンケート調査実施およびアンケート調査票の作成については、学位授与方針が具体的に明示されてからでないと実施できないのが現実である。従って、検討中の学位授与方針、教育課程の編成・実施方針が作成され、学生に公表されてからアンケート調査票を実施する予定である。
- ★ ○教育課程の編成・実施方針については、2010年度中に大学院諸問題検討委員会および研究科委員会において検討が重ねられ、課程の体系的な再編成の原案はすでにできている。まだ研究科内部での検討レベルであるので公表は今後の課題となる。